

「ガーデンシティ舞多聞」における
コミュニティデザインとコミュニティマネジメントの実践的研究

STUDY ON COMMUNITY DESIGN AND COMMUNITY MANAGEMENT
AT GARDEN CITY MAITAMON IN KOBE

鎌田 誠史 有明工業高等専門学校 建築学科 准教授
谷口 文保 先端芸術学部クラフト・美術学科 講師
久本 直子 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 助教
齊木 崇人 大学院芸術工学研究科 教授
佐々木 宏幸 デザイン学部環境・建築デザイン学科 特別准教授

Seishi KAMATA Department of Architecture, Ariake National College of Technology, Associate Professor
Fumiyasu TANIGUCHI Department of Crafts and Arts, School of Progressive Arts, Associate Professor
Naoko HISAMOTO Department of Visual Design, School of Design, Assistant Professor
Takahito SAIKI Graduate School of Arts and Design, Professor
Hiroyuki SASAKI Department of Environmental Design, School of Design, Special Associate Professor

要旨

「ガーデンシティ舞多聞」の第1工区目である「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクトは、都市再生機構と神戸芸術工科大学、そして住民との連携で進められている宅地開発プロジェクトである。新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指すこのプロジェクトは、約6haの面積に、宅地68区画、緑地公園、街区公園、共同施設が配置される。

さらにみつけプロジェクトの計画手法を使用して、「みつけ南プロジェクト」（全82画地）の計画を行っている。ここでの「コミュニティづくり」「ルールづくり」「すまいづくり」はみつけプロジェクトでの経験が生かされている。

神戸芸術工科大学が、継続的に「空間デザイン（住まい、緑等）」「コミュニティ」「マネジメント（ルールづくり、組織づくり等）」といった専門分野のサポートを行うことより、安定し、持続的なまちづくりや自立した持続可能な地域コミュニティづくりを実現している。

Summary

The area developed in the first phase within The Garden City MAITAMON Project is named MITSUIKE. The MITSUIKE project is a residential development project that has been implemented through collaboration between KDU, UR and the residents.

The town planning methods employed by the MITSUIKE Project which introduced the group application system were also applied to implement the MITSUIKE Minami Project (for a total of 82 lots). The KDU provided continued support in specialized fields such as “spatialdesign” (housing, greening, etc.), “community development,” and “management” (the establishment of rules and the formation of organizations). Such support helped realize stable and sustainable town planning and an autonomous, sustainable community development.

1. はじめに

1-1 「ガーデンシティ舞多聞」の概要

新しい郊外居住の形を目指す「ガーデンシティ舞多聞」は、神戸芸術工科大学の約1km南に位置する、旧舞子ゴルフ場(約108ha)で開発中のプロジェクトである。施行者の都市再生機構は、計画人口約8,400人、計画戸数約2,600戸を予定し、2018年の事業完成を目指している。神戸芸術工科大学は、2001年より、事業協力者として、プロジェクトの「スペースデザイン」「コミュニティづくり」「エリアマネジメント」をサポートしつづけている。2007年3月25日には、「舞多聞まちびらき記念式典」「舞多聞まちびらきフェスタ」が行われた。

第一工区「みつけプロジェクト」(約6ha)は、旧ゴルフ場の起伏のある地形や斜面緑地を生かし、緩やかな曲線を描く道路、約120～500坪(平均約220坪)のゆとりある宅地68画地、街区公園(舞多聞みつけ公園)、都市計画緑地(学園南緑地)、コミュニティ施設(舞多聞まちづくり館)が配置され、自然豊かな居住環境を実現している。第二工区「みつけ南プロジェクト」(約3ha)は、「みつけプロジェクト」の南西部に位置する。全82画地のうち、23画地は、ワークショップで事前に形成したグループ単位で応募する「グループ申込型宅地分譲」が採用され、2007年春に宅地引渡しが行われた。

最終工区「てらいけプロジェクト」(約10ha)は、「ガーデンシティ舞多聞」の西端部に位置している。現在、神戸芸術工科大学と都市再生機構は、「みつけ」「みつけ南」の経験を生かした、「てらいけ」の「スペースデザイン」「コミュニティづくり」「エリアマネジメント」の実施方策について、検討を進めている。

1-2 研究の内容

本稿は、2001年から神戸芸術工科大学が都市再生機構の事業協力者としてサポートしている「ガーデンシティ舞多聞」のコミュニティデザインとコミュニティマネジメントの実践に関する研究報告である。

実践内容は、2007年度から継続的に進めてきた自然とふれあうワークショップと絵本づくりプロジェクト、絵本読み聞かせワークショップ、その絵本原画展、造形ワークショップ、そして神戸芸術工科大学のまちづくりの10年間の歴史を振り返る「ガーデンシティ舞多聞展」の開催について言及する。

2. ネイチャーアートワークショップ実施報告

2-1 ワークショップの経緯

舞多聞プロジェクトでは、2007年よりアートを介したコミュニティづくりをガーデンシティ舞多聞内で行っている。

UR都市再生機構と神戸芸術工科大学主催の「緑地管理ワークショップ」は、「みつけ」「みつけ南」に住まう人々を対象に行われているワークショップである。旧舞子ゴルフ場の斜面緑地が残された「学園南緑地」と、隣接する「舞多聞まちづくり館」をフィールドとして継続的に開催されている。「学園南緑地の緑地管理」と、「舞多聞ネイチャーアート」の2つのプログラムが同時に開催されている。

「学園南緑地の緑地管理」の「住まう人自らの手による共有財産(緑地)の管理」、「舞多聞ネイチャーアート」の「身近な自然物を用いたアート作品づくり」、これらを通じて、「コミュニティのつながり」「自然とのふれあい」「アートへの関心」を深めることを目的としている。

2009年3月8日と29日に行われた、「自然と出会う、動物をつくろう」のアートワークショップは、「ガーデンシティ舞多聞」に植生している樹木を使った動物の造形物をつくるプログラムで、参加者が、アートを通じて、ガーデンシティ舞多聞の自然環境に親しむことを目的として開催されている。

2-2 絵本づくりプロジェクト

過年度から実施してきた、「自然と出会う、動物をつくろう」のアートワークショップでは、「ガーデンシティ舞多聞」てらいけプロジェクト予定地に植生している樹木を使って、動物の造形物を作った。そして、この公開講座で参加した神戸芸術工科大学の学生が感じ取ったものをエッセンスとして、ガーデンシティ舞多聞を舞台に絵本の作成を行った。この絵本は、ここの土地で育つ子供達に向けて、また地域の物語として住民に語り継いでもらうことを目的としている。絵本はコンペ形式で数名の学生の作品の中から審査会によって1作品を選定する方式を採用した。

2010年3月12日には、UR都市機構の関係者、こどもコミュニティケアの代表、本学教員による絵本コンペ審査会が開催され、審査の結果1作品「ちいさなきとはじまりのまち」が選出された。（図1）



図1 完成した絵本「ちいさなきとはじまりのまち」

2-3 絵本読み聞かせワークショップ

ワークショップから生まれた絵本の完成を祝して、まずはガーデンシティ舞多聞の子供達に向けて読み聞かせワークショップを実施した。2010年7月12日、ガーデンシティ舞多聞の保育園「ちっちゃなこども園にじいろ（こどもコミュニティケア）」の協力のもと、神戸芸術工科大学の学生達が園児に絵本の読み聞かせを行った。（図2）

読み聞かせは、学生ひとりに園児2～4名の3組で行われ、園児達はみな学生の読み聞かせを真剣に聞き入っていた。



図2 学生による絵本読み聞かせ（2010.7.12）

2-4 絵本の完成披露と造形ワークショップ

2010年7月24日、ガーデンシティ舞多聞内のコミュニティ施設「まちづくり館」にて、舞多聞を舞台とする絵本『ちいさなきとはじまりのまち』の完成セレモニーと、ネイチャーアート「小さな動物をつくる造形ワークショップ」が開催された。

このセレモニーは2007年から継続的に行われたワークショップから生まれた絵本の完成を記念するセレモニーで、舞多聞で育つこどもたちにも、まちへの愛着を持ってもらうことを目的として開催された。

会場となったまちづくり館には昨春のワークショップで舞多聞の木を使って作られた動物の作品の写真と、絵本の原画が展示された。絵本完成セレモニーの後、絵を手掛けた神戸芸術工科大学の学生によって、出来上がった絵本の読み聞かせが行われた。

その後行われた造形ワークショップでは、粘土やビーズ、造成中のてらいけ地区から採取された松や、松ぼっくり等を用いて小さな動物を作成した。出来上がった動物たちは、昨春のワークショップで作られた動物に取付けられたゆりかごや船に乗せ、造形ワークショップの講評、記念撮影が行われた。

これからゆりかごや船に乗って舞多聞を旅するという、新たな舞多聞の物語となった。

2-5 絵本原画展とガーデンシティ舞多聞展

2010年10月13日～18日、神戸芸術工科大学ギャラリーセレンディップにて、絵本『ちいさなきとはじまりのまち』の原画展が開催された。絵本の原画やワークショップ映像、実際に作成した動物のオブジェを展示するなど、いままでの活動の歩みをたどる展示が行われた。この展示は企画段階から制作・展示にいたるまで絵本の作成に携わった学生と教員を中心に行われた。（図3）

この展示と同時進行で「ガーデンシティ舞多聞展」と称した神戸芸術工科大学のまちづくり活動の10年の歩みをたどる企画展示も行われた。2001年から神戸芸術工科大学がガーデンシティ舞多聞のまちづくりに深く関わった「スペースデザイン」、「コミュニティデザイン」、「コミュニティマネジメント」の歴史をパネルにまとめて展示し、加えてこの10年のまちづくり活動の拠点として数多くのスタッフが作業した「齊木研究室」の空間を再現して臨場感あふれる展示を行っている。このような試みはやはり10年継続して地域と密着しながらまちづくり活動を行ってきたからこそ実現した企画展示だと言える。

また展示会場では、齊木学長をコーディネーターとして、舞多聞みつけエリアの住民や事業主である都市機構をパネリストとして、トークセッションが開催された。まちづくりの苦労話や思い出話に花が咲き、なかでも住む前からコミュニティを形成することの大切さ、また自然に囲まれて暮らすことの快適さなど活発な発言があった。より魅力的なまちづくりを目指して住民と共にまちづくりを進めていく上で、意義があったと言える。（図4,5）

3 まとめ

神戸芸術工科大学では、ガーデンシティ舞多聞という大規模な自然住宅地を対象に、①自然と共存する豊かな住まい、②価値観を共有するコミュニティの形成・自立・技術支援プログラム、③地域コミュニティへの情報発信、を目指したコミュニティワークショップ

を開催し、コミュニティや空間の質を持続させるためのマネジメントを実践的に行ってきた。

その内容は多岐にわたり建築計画、アートワークショップ、絵本づくりなど神戸芸術工科大学の「芸術工学」の理念を実践的な研究において追求することができたことは学生ばかりでなく我々教員にとっても貴重な体験であった。

今後も継続的にこのようなまちづくり活動を実施していくことは地域にとっても本学にとっても有効な実践的研究であると言える。



図3 絵本原画展の風景 (2010.10.13)



図4 「ガーデンシティ舞多聞展」トークセッション風景 (2010.10.18)

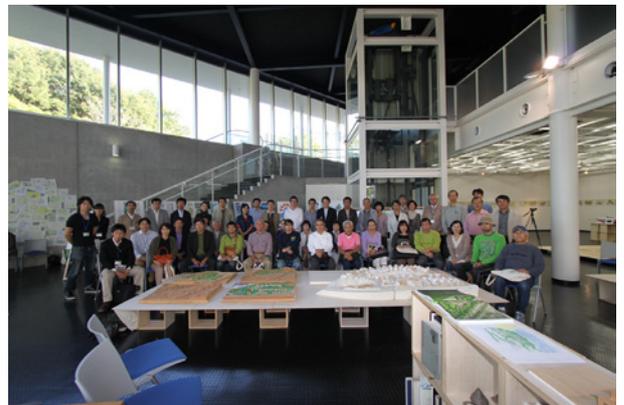


図5 「ガーデンシティ舞多聞展」トークセッション風景 (2010.10.18)